

原著 (Article)

高等学校教科書における「痩せ」に関連する 記載内容について

A study on high school textbook description about slenderness

中島 正夫*・大島 千穂**・三田 有紀子***・續 順子****

NAKASHIMA, Masao* OSHIMA, Chiho** MITA, Yukiko*** TSUDZUKI, Junko****

要 旨

若年女性の痩せ志向の改善に向け、高等学校用教科書（保健体育・家庭）における「痩せ」に関連する記載内容を明らかにし、そのあり方について検討した。保健体育3冊について、不必要・不適切な体重減量行動による健康障害は全てで記載されていたが、適正なボディイメージに関して記載されていたのは1冊であった。その他、痩せの基準に関しては2冊、若年女性の痩せ志向、適正体重、思春期の体型の変化に関してはそれぞれ1冊で記載があった。家庭16冊について、不必要・不適切な体重減量行動による健康障害は全てで記載されていたが、適正なボディイメージに関して記載されていたのは5冊であった。その他、若年女性の痩せ志向は11冊、適正体重は14冊、痩せの基準は8冊で記載されていたが、思春期の体型の変化について記載されている教科書はなかった。若年女性の痩せ志向が大きな健康課題となっているにもかかわらず、高等学校学習指導要領や同学習指導要領解説では「痩せ」について取り上げることが明記されていないため、保健体育・家庭の教科書における「痩せ」に関連する記載が十分とは言えない状況にあり、高等学校において適正なボディイメージの形成などに関する健康教育が適切に行われていない可能性がある。高校生に対して、適切な「痩せ」に関する健康教育が行われるためには、学習指導要領、少なくとも学習指導要領解説に「痩せ」や「適正なボディイメージの形成」について明記し、教科書に記載されるようにすることが必要である。

キーワード： 痩せ, 教科書, 高等学校, 健康教育, ダイエット

Key words： slenderness, textbook, high school, health education, diet

I はじめに

近年、若年女性の痩せ志向が大きな健康課題となっている^{1,2)}。若年女性が不必要・不適切な体重減量行動を行うことは、本人に様々な健康障害が発生する恐れがある³⁾とともに、妊娠⁴⁾や次世代の健康への影響も懸念される^{5,6)}。わが国では30年以上前

* 椋山女学園大学教育学部子ども発達学科 ** 前椋山女学園大学生活科学部管理栄養学科

*** 椋山女学園大学生活科学部管理栄養学科 **** 椋山女学園食育推進センター

から若年女性の痩せ志向に関する数多くの研究が行われ、その結果、児童生徒を対象として、不必要・不適切な体重減量行動（ダイエット）による健康障害や適正なボディイメージの形成に関する健康教育を行う必要性が示されている⁷⁾。しかし、女子高校生において平成26（2014）年に痩せたいと思っている者は84.2％、体重を減らす努力の経験がある者は55.3％⁸⁾、また、平成25（2013）年の高校3年生女子での不健康痩せ発生頻度は20.5％²⁾という状況にある。児童生徒に対する教育は一般的に教科書を用いて実施されることから、学校で使用されている「保健」「家庭」などの教科書の記載内容から「痩せ」に関する健康教育の実施状況を窺い知ることができる。著者らは、先に小学生及び中学生を対象とした教科書における「痩せ」に関する記載内容が十分とは言えない状況にあることから、この時期に「痩せ」に関する健康教育が十分行われていない可能性があることを報告した⁹⁾。本稿では、若年女性の痩せ志向の改善に向け、高等学校教科書（保健体育・家庭）における「痩せ」に関連する記載内容を明らかにし、そのあり方について検討することを目的とする。

II 対象・方法

文部科学省教科書目録（平成27年4月）¹⁰⁾に掲載されている高等学校用教科書（保健体育・家庭）における、不必要・不適切な体重減量行動による健康障害や適正なボディイメージなどの「痩せ」に関連する記載内容を抽出し、そのあり方を検討する。対象とした教科書は次のとおりである。なお、各教科書の採用割合は調査していない。

1. 保健体育（3冊）

大修館書店（2冊）：最新高等保健体育・現代高等保健体育，第一学習社（1冊）：高等学校保健体育

2. 家庭（16冊）

大修館書店（3冊）：家庭基礎・家庭総合・未来を拓く高校家庭基礎，第一学習社（2冊）：家庭基礎・家庭総合，東京書籍（2冊）：家庭基礎・家庭総合，開隆堂（2冊）：家庭基礎・家庭総合，教育図書（3冊）：家庭基礎・家庭総合・最新家庭基礎，実務出版（4冊）：家庭基礎・家庭総合・図説家庭基礎・家庭基礎²¹

「痩せ」に関連する記載内容として抽出する事項は、若年女性の痩せ志向、適正体重・標準体重、痩せの基準、思春期の体型の変化、適正なボディイメージ（ボディイメージのゆがみを含む。）、痩せの原因・予防及び不必要・不適切な体重減量行動（ダイエット）による健康障害とした。

Ⅲ 結果

表1に「保健体育」、表2に「家庭」の記載内容を示す。適正体重・標準体重及び痩せの基準については、記載があることを○で示し、具体的内容は省略することを原則とした。また、「家庭」について、同一出版社の「家庭基礎」と「家庭総合」の記載内容が基本的に同一のときはまとめて記載し、異なる部分があればその旨コメントした。

1. 保健体育（3冊）

痩せの原因・予防や不必要・不適切な体重減量行動による健康障害は全てで記載されていたが、適正なボディイメージに関して記載されていたのは1冊であった。その他、痩せの基準に関しては2冊、若年女性の痩せ志向、適正体重、思春期の体型の変化に関してはそれぞれ1冊で記載があった。

2. 家庭（16冊（基礎10冊、総合6冊））

痩せの原因・予防や不必要・不適切な体重減量行動による健康障害は全てで記載されていたが、適正なボディイメージに関して記載されていたのは5冊であった。その他、若年女性の痩せ志向は11冊、適正体重は14冊、痩せの基準は8冊で記載されていたが、思春期の体型の変化について記載されている教科書はなかった。なお、胎児への影響について1冊で、Developmental Origins of Health and Diseases (DOHaD)^{5,6)}の概念について2冊（同一出版社の基礎・総合）で記載されていた。

表1 高等学校用教科書「保健体育」における「痩せ」に関連した記載内容

	教科書名	若年女性の 痩せ志向	適正体重 標準体重	痩せの 基準	思春期の 体型の変化	適正な ボディメー ジャー	不必要・不適切な体重減量行動による健康障害
保健 体育	最新高等 保健体育	—	○ (BMI)	○ (BMI)を 計算させ る	—	・適正な体重であるにもかかわらず、体型認識のゆがみ… (図：客観的な体型別にみた体型の自己認識 (ふつう体型なのに、自分は太っているかと思いきや、若い女性が過半数のものばる)) ・海外では…やせすぎモデルを排除しようという議論もある。 ・自分の体型について自己評価してみよう：やせている～太っている ・体型の自己評価と、BMIを比較してみよう	・図：「情報を収集し、思考・判断する」の失敗例と成功例 (ダイエットの場合：失敗例；一つの情報によく考えもせず飛びつく。失敗したり、病気になる。成功例；いろいろな情報を集め、それが正しいか、自分に合っているかを考えて選ぶ。健康的に効果的なダイエットができる。) ・日々変化している体に向き合う思春期は、自分の容姿や体型が気になる、体の変化に不安や悩みを持つことがあります。 ・結果を見通す力が十分育っていないのに、挑戦することでは一生を台なしにする行動を選択してしまうことがあります。 ・(適正な体重であるにもかかわらず、体型認識のゆがみなどによって) 無理なダイエットをおこなない、必要な食事さえも制限して、健康をそこなうことがあります。 ・背景には、やせていることをもてはやする社会的風潮などがあると考えられます。 ・健康問題のなかには、エネルギーの不足による…やせ、鉄分の不足による貧血などのようにすぐにあらわれるものもあります。 ・若い人の場合、急激な食事制限 (ダイエット) をすることによって、たんぱく質やカルシウムなど、体をつくるために必要な栄養素が不足し、その結果、内臓の機能の低下、肌荒れや脱毛、女性では無月経が起こる場合があります。 ・カルシウムの不足による骨粗しょう症などのように、長い年月を経てあらわれる健康問題もあります。 ・無理なダイエットをすると、卵巣や子宮の発達が妨げられ、月経不順や無排卵、無月経を起こすことがあります。
	現代高等 保健体育	同上	—	—	同上	—	・図：「情報を収集し、思考・判断する」の失敗例と成功例 (ダイエットの場合：失敗例；一つの情報によく考えもせず飛びつく。失敗したり、病気になる。成功例；いろいろな情報を集め、それが正しいか、自分に合っているかを考えて選ぶ。健康的に効果的なダイエットができる。) ・エネルギー摂取が少なすぎるとやせの原因となります。思春期は行きすぎたダイエットに走りがちですが、そのことは極度のやせをもたらすだけではなく、栄養不足による体調不良やさまざまな病気 (貧血や摂食障害、女性の場合は無月経や将来、不妊症、骨粗しょう症) につながることがあります。 ・無理なダイエットをすると、卵巣や子宮の発達が妨げられ、月経不順や無排卵、無月経を起こすことがあります。
	高等高校 保健体育	・近年は、過剰なやせ願望のために極端なダイエットをおこなう人が増えてきました (図：若い女性のやせの増加；国民健康・栄養調査の結果) ・わが国では現在、食生活については…栄養のバランスを考えない極端なダイエット…などが指摘されています。	—	・極端に体脂肪が少ない状態のことをやせといいますが、いいま	・思春期になると、脂肪が増加し、乳房が大きくなり、全体的に丸みをおびてくるなどの外見的变化…。	—	・意思決定や行動選択に向けて：簡単だけど不健康、困難だけど健康的。AとBに分かれてダイエットをしてみよう (Aさん：夜は食べない/Bさん：3食食べて運動) ・やせは、低栄養・飢餓状態であり、症状が進むと生命に危険が及ぶことがあります。とくに女性では、性ホルモンの分泌に影響をあたえ、月経の遅れや停止に加えて、妊娠・出産ができなくなることもあります。 ・摂食障害という新たな病気につながる人もいるので注意が必要です。 ・無理なダイエットなどから、重大な心身の健康障害を引き起こすこともあります。

表 2 高等学校用教科書「家庭」における「痩せ」に関連した記載内容

出版社名	教科書名	若年女性の 痩せ志向	適正体重 標準体重	痩せの 基準	思春期の 体型の変化	適正な ボディイメージ	不必要・不適切な体重減量行動による健康障害 痩せの原因・予防
大修館書店	家庭基礎・ 総合	・過度にやせたいという願望から、食事の量を減らしたり、抜いたりする若い女性が増えている(図：BMIによる肥満とやせの割合；性・年代別)。	○ (BMI)	○ (BMI)	—	—	・食生活を点検して、改善方法を考えてみよう。あなたの食生活チェック：ダイエットをしている。 ・このような(注：減食・欠食)食生活を続けると、骨粗鬆症や思春期やせ症などの原因となることがある。
	未来を拓く 高校家庭基礎	同上	同上	同上	同上	同上	【同上(一部表現が異なる)】
第一学習社	家庭基礎・ 総合	・ダイエットで食事を抜いたり、食べる量を無理に減らしたりする人が増えている。	—	—	—	—	・無理なダイエットでやせすぎの人もいる。 ・極端なダイエットを続けて、摂食障害におちいる人も少なくない。栄養不足は、体力や病気抵抗力の低下、体調不良、無気力などをまねく。節食による減量では、皮下脂肪よりも筋肉・臓器の減少が大きい。筋肉がやせて内臓脂肪が多く、はりのない体型になる。また、細胞活動が低下し、ダイエットをやめたとき、かえって太りやすい体質に変わる。
	東京書籍	・特に若い女性には、過度の痩せが見られるようになった。 ・20歳代女性のおよそ2割が(注：痩せに)該当している(図：BMIによる痩せ者の割合；性・年代別)。 ・痩せ願望は、年々低年齢化している。	○ (BMI) 【総合では計算させず】	○ (BMI)	—	・瘦せているにもかかわらず「太っている」と自己評価する者が増える…。	・若い女性の強い痩せ願望は、マスコミの情報などによるところも大きく科学的でないダイエット情報による貧血や低栄養、将来の不妊や骨粗鬆症の危険が増す…。 ・痩せ過ぎの妊婦から生まれた子どもは、低出生体重児であることが多いばかりでなく、肥満しやすい体質であることが多く、将来生活習慣病の危険性が大きいことが指摘されている。 ・【総合のみ】妊娠中の食生活は、子どもの将来の健康にも大きな影響を与える。
開隆堂	家庭基礎	—	○ (BMI)	○ (BMI)	—	・BMIで「やせ」や「ふつう」と判定されても、太っていると思いつつ「やせ」や「ふつう」と判定されても、太っていると思いつつ…。	・(BMIで「やせ」や「ふつう」と判定されても、太っていると思いつつ、)ダイエットを始めると高校生も少なくない。 ・自分の適正体重を知り、適切な生活習慣や運動習慣を身につけることは、将来をも見すえたいうえでの課題である。 ・食べ過ぎや量や種類が適切でないといふやせなどの問題が生じる。 ・やせすぎもまた不健康であり、貧血、感染症、骨粗しょう症などになりやすい。
	家庭総合	・若い世代では、ダイエットに対する関心も高い…。	同上	同上	同上	—	・やせるために極端な食事制限をして摂食障害となり、栄養が不足して健康状態を損なうことがないよう気をつけたい。 ・摂食障害：正常な摂食ができない状態をいう。人間関係のストレスや極度のダイエットがきっかけとなる場合が多い。食事を摂らない拒食症や過度に摂り過ぎる過食症などがあり、またそれらが交互にあらわれることもある。生命の危険があるので医師に相談し治療を受けることが必要である。 ・やせ過ぎは、貧血、感染症、骨粗しょう症などになりやすい。

家庭

教育図書	家庭基礎・ 総合	・やせるために無理なダイエットをするなど、バランスを欠いた食生活が問題となっている。	○ (BMI)	—	—	・図：体型の自己 評価 (15歳～19 歳) (厚生労働省 「国民栄養の現状」 平成14年)	・現在は、食や健康に関する情報が氾濫し、科学的根拠がない情報も多い。宣伝文句や体験談をそのまま信じてしまう傾向の多い情報源で正しい知識を調べ、それにもとづいて毎日の食事をしていくようにしよう。 ・無理なダイエットによるやせすぎで、貧血、感染症、骨粗鬆症になる …。 【一部表現が異なる】
	最新家庭基 礎	—	同上	同上	同上	—	【同上 (一部表現が異なる)】 ・必要のないダイエットによる栄養不足。 ・妊娠している場合は、自分自身の健康の他に、赤ちゃんの発育や出産時の体力づくりのためにも、バランスのよい食事が必要である。
実務出版	家庭基礎・ 総合	—	○ (BMI)	—	—	—	・やせ願望から朝食を抜くことがある。 ・極端な欠食や偏食を行うことにより体調を崩し、極度のエネルギー不足により、女子では月経異常や骨粗しょう症などの病気になってしまうことがある。
	図説家庭基 礎	同上	同上	同上	同上	同上	【同上 (一部表現が異なる)】
	家庭基礎 2 1	・図：「BMI 判定による肥満・ 普通・やせの性・年代別比率」	同上 ○ (BMI)	同上	同上	同上	・あなたの食生活をチェック：ダイエットはしていない。 ・太りすぎが気になる人は、適度な運動を心がけよう。 ・ダイエットは体重を減らすのが、脂肪ではなく、たんぱく質が減る。健康のためには、体脂肪率を女性は20～25%…に保つように食べ、積極的にからだを動かすことである。 ・ダイエットによって極端に食事を減らすと、体脂肪が多い、ひ弱なからだになる。 ・やせ願望：やせ過ぎも危険である。ダイエットを続けると、食べ物が食べられなくなる摂食障害になることもある。無理なダイエットは体力や気力を低下させ、病気に感染しやすくなる。

IV 考察

教科書は基本的に学習指導要領及び学習指導要領解説を踏まえて作成される。表3に高等学校学習指導要領¹¹⁾「保健体育：保健」・同解説¹²⁾「保健体育編」及び同「家庭」・同解説「家庭編」における「痩せ」に関連する記載内容の概要を示す。以下、これらと教科書の記載内容を比較する。

保健体育について、高等学校学習指導要領・同解説では、健康の保持増進には健康

表3 高等学校学習指導要領等における「痩せ」に関連する記載内容

高等学校学習指導要領 第2章 第6節 保健体育 第2款 第2 保健		高等学校学習指導要領解説 保健体育編 (平成21年7月)
(1) 現代社会と健康 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。	ア 健康の考え方 健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりがかわること。	ア 健康の考え方 (ウ) 健康に関する意志決定や行動選択 健康を保持増進するには、適切な意志決定や行動選択が必要であり、それらには個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していることを理解できるようにする。また、適切な意志決定や行動選択を行うには、十分に情報を集め、思考・判断すること、行動に当たっては自分なりの計画・評価を行うこと、及び社会的な影響力に適切に対処することなどが重要であることにについて触れるようにする。
	イ 健康の保持増進と疾病の予防 健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること。	イ 健康の保持増進と疾病の予防 (ア) 生活習慣病と日常の生活行動 生活習慣病を予防し、健康を保持増進するには、適切な食事、運動、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を実践することが必要であることを理解できるようにする。その際、悪性新生物、虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病などを適宜取り上げ、それらは日常の生活行動と深い関係があることを理解できるようにする。
(2) 生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。	ア 生涯の各段階における健康 生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかわっていること。	ア 生涯の各段階における健康 (ウ) 加齢と健康 加齢に伴う心身の変化について、形態面及び機能面から理解できるようにする。中高年期を健やかに過ごすためには、若い時から、適正な体重や血圧などに関心をもち、適切な健康習慣を保つこと、定期的に健康診断を受けることなど自己管理することが重要であることを理解できるようにする。
高等学校学習指導要領 第2章 第9節 家庭		高等学校学習指導要領解説 家庭編 (平成22年1月)
第1 家庭基礎		
(2) 生活の自立及び消費と環境	ア 食事と健康 健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理及び食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生涯を見通した食生活を営むことができるようにする。	(ア) 栄養と食事 栄養の過多・過少、食事の規則性など個人の食生活の問題…など、社会的な問題ともかかわる現代の食生活の問題点を理解させる。その際、自分の食生活の自立に向けた課題について考えさせる。
第2 家庭総合		
(4) 生活の科学と環境	ア 食生活の科学と文化 栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解させ、食生活の文化に関心をもちたせるとともに、必要な知識と技術を習得して安全と環境に配慮し、主体的に食生活を営むことができるようにする。	(ア) 人の一生と食事 乳児期から高齢期までの各ライフステージにおける食生活の課題、食事摂取基準や嗜好の変化などについて理解させる。また、自分の食生活を振り返らせて、現代の食生活の傾向と問題点について考えさせるとともに、毎日の食事が健康と深くかかわっていることを理解させる。

に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び環境がかかわり、十分に情報を集め、思考・判断すること、行動に当たっては自分なりの計画・評価を行うこと、及び社会的な影響力に適切に対処することなどが重要であることに触れること、また、健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があることを理解できるようにすること、その際、悪性新生物、虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病などを適宜取り上げることなどが記載されている。このように生活習慣病やその予防に関する記載はあるが、「痩せ」に関する明確な記載はない。教科書では、3冊中、若年女性の痩せ志向、適正体重、思春期の体型変化、適正なボディイメージは1冊、痩せの基準は2冊での記載にとどまっていた。一方、痩せの原因・予防や不必要・不適切な体重減量行動による健康障害は全ての教科書で記載されていた。このことは、学習指導要領解説保健体育編での「意思決定や行動選択」に関する具体例として全ての教科書が「体重減量行動（ダイエット）」を取り上げていることなどから出版社が自主的に記載したものと考えられる。なお、1社2冊で体重減量行動が肯定的にとらえられる恐れがある記述（「情報を収集し、思考・判断する」の失敗例と成功例（ダイエットの場合：成功例；いろいろな情報を集め、どれが正しいか、自分に合っているかを考えて選ぶ。健康的に効果的なダイエットができる。）があった。

家庭について、高等学校学習指導要領・同解説「基礎」では、栄養、食品、調理及び食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生涯を見通した食生活を営むことができるようにするため、栄養の過多・過少、食事の規則性など個人の食生活の問題など、社会的な問題ともかかわる現代の食生活の問題点を理解させることが、「総合」では、栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解させ、食生活の文化に関心をもたせるとともに、必要な知識と技術を習得して安全と環境に配慮し、主体的に食生活を営むことができるようにするため、各ライフステージにおける食生活の課題、食事摂取基準や嗜好の変化などについて理解させることが記載されている。しかし、「痩せ」に関する明確な記載はない。教科書では、16冊中、若年女性の痩せ志向は11冊、適正体重は14冊、痩せの基準は8冊、適正なボディイメージは5冊で記載されていたが、思春期の体型変化について記載している教科書はなかった。なお、適正体重について、「痩せ」と関連してBMIの記載があったのは8冊であり、残り6冊では「日本人の栄養摂取基準」に関連した記載のみであった。一方、痩せの原因・予防や不必要・不適切な体重減量行動による健康障害は全ての教科書で記載されていたが、学習指導要領解説での「食生活の問題点」について考えさせるという記載を踏まえ、出版社が自主的に記載したものと考えられる。さらに、胎児への影響やDOHaD^{5,6)}の概念について自主的に記載している教科書もあった。

以上のとおり、不必要・不適切な体重減量行動による健康障害は全ての教科書で記載されていたが、これは出版社の自主的な対応と考えられる。一方、若年女性の痩せ志向、痩せの基準、思春期の体型の変化、適正なボディイメージに関する記載は一部

の教科書にとどまっており、これらの内容に関する健康教育が十分行われていない可能性があるが、その原因は「学習指導要領・同解説」に「痩せ」に関する明確な記載がないことにあると考える。特に、思春期の体型の変化は保健体育1冊・家庭0冊、適正なボディイメージは保健体育1冊・家庭5冊での記載であった。著者らは、女子大学生にはボディイメージのゆがみが認められ、また痩せたい理由として痩せていることが美しいと考える者や周囲の評価を気にする者、「自分に満足している」評価点が低い者などが体重減量行動をとりやすいことを報告した¹³⁾が、不適切な「意思決定や行動選択」や「食生活の問題点」の背景には美意識やボディイメージのゆがみ、また自尊感情の低さがあると考えられることから、自尊感情が低下し、自分の容姿や周囲の評価を気にする時期である思春期に、確実に適正なボディイメージなどに関する健康教育が行われる必要がある。平成29年度に高等学校学習指導要領が改訂され、平成34年度から実施される予定であるが、高等学校学習指導要領・同解説において「痩せ」や「適正なボディイメージの形成」に関して明確に記載されることが強く期待される。

V 結論

若年女性の痩せ志向が大きな健康課題となっているにもかかわらず、高等学校学習指導要領や同学習指導要領解説では「痩せ」について取り上げることが明記されていないため、保健体育・家庭の教科書における「痩せ」に関連する記載が十分とは言えない状況にあり、高等学校において適正なボディイメージの形成などに関する健康教育が適切に行われていない可能性がある。高校生に対して、適切な「痩せ」に関する健康教育が行われるためには、学習指導要領、少なくとも学習指導要領解説に「痩せ」や「適正なボディイメージの形成」について明記し、教科書に記載されるようにすることが必要である。

付 記

本文の要旨は第76回日本公衆衛生学会総会（平成29年10～11月、鹿児島市）で発表した。

■引用文献

- 1) 厚生労働省、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針（厚生労働省告示第430号、平成24年7月10日）。
- 2) 厚生労働省「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会、健やか親子21（第2次）について、2014; <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041585.html>（2017年11月22日アクセス可能）。
- 3) 多田光、やせに伴う疾患（合併症）：神経性無食欲症について、小児科学レクチャー 2012; 2: 1048-1054。

- 4) 厚生労働省食を通じた妊産婦の健康支援方策研究会, 妊産婦のための食生活指針, <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/02/h0201-3a.html> (2017年11月22日アクセス可能).
- 5) Barker DJP. The origins of the developmental origins theory. *J Intern Med* 2007; 261: 412–417.
- 6) Gluckman PD, Hanson MA. Living with the past :evolution, development and patterns of disease. *Science* 2004; 305: 1733–1736.
- 7) 中島正夫, 大島千穂, 續順子他, 女子大学生の痩せ志向について: 第1報: 質的研究, 椋山女学園大学研究論集自然科学篇 2016; 47: 1–10.
- 8) 財団法人日本学校保健会, 平成26年度児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書.
- 9) 中島正夫, 大島千穂, 三田有紀子他, 小学生及び中学生を対象とした教科書における「痩せ」に関連する記載内容について, 東海公衆衛生雑誌 2017; 5: 89–95.
- 10) 文部科学省, 教科書目録 (平成27年4月), http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/mokuroku/27/1357046.htm (2017年11月22日アクセス可能).
- 11) 文部科学省, 高等学校学習指導要領 (文部科学省告示第34号, 平成21年3月9日).
- 12) 文部科学省, 高等学校学習指導要領解説, 2009・2010; http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1282000.htm (2017年11月22日アクセス可能).
- 13) 中島正夫, 大島千穂, 續順子他, 女子大学生の痩せ志向について: 第3報: 量的研究(2), 椋山女学園大学研究論集自然科学篇 2018 (印刷中).